慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済史研究に就いて（三）
Sub Title	
Author	野村, 兼太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.9 (1921. 9) ,p.1289(77)- 1301(89)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210901-0077

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

結果獨逸商品の競爭者たる日本並に米國內地の生產品が其注文の大部分を獨逸に奪ひ去られたるは主として此期間に存す。斯の如くExternal Price と Internal Price との間に隔段の相異ありで之を利用して有利なる貿易を爲し得る限り、獨逸は必要以外に輸出價格を低減するの理由を知らざるなり。

稍枝葉に亘れ共、實際米國商人が獨逸より仕入つゝある價格に依りて二三實例を引用すれば更に明瞭なり。

米國關稅委員會は左の如き報告を議會に提出し居れり。

Louis Wolf & Co 報告（註六）

		戰前仕込價格	1921年仕込價格	騰貴率
Fine Jointed Dolls	Dz.	$ 18,58	$ 28,61	54 %
Jointed Dolls	Dz.	5,11	9,58	87 %
Imitation-Kid Dolls	Dz.	2,88	7,42	192 %
Dressed Dolls	Dz.	1,14	2,08	82 %

（註六）Louis wolf & Co は獨逸大形の輸入卸賣商として紐育第一流の會社なり。

Mr. Otto Fix (註七)

		戰前通關價格	1921年通關價格	騰貴率
Harmonica ＃1	Dz.	$ 2,16	$ 4,56	111 %
Harmonica ＃2	Dz.	$ 3,13	$ 9,00	187 %
Harmonica ＃3	Dz.	$ 4,30	$14,40	235 %

（註七）Mr. Otto Fix は紐育稅關上級檢査官にして現在特に任命を受けて Comperative Vaulation report Bureau の特別委員たり。

Mr Otto Fix 報告

		戰前通關價格	1921年通關價格	騰貴率
Wool Cloth	＃1	$ .655	$ 1 280	95 %
Wool Yarn	＃2	.714	.946	32 %
Cotton Yarn	＃3	.476	1.024	115 %
Cotton Hosiery	＃4	2.000	3.680	80 %
Cotton Laces	＃5	.35	.64	83 %
Cotton Laces	＃6	.41	.69	70 %

即ち獨逸內地の物價は馬克を以て計れば戰前の十四倍なれど、其間馬克其物の相場が十五分の一に下落し居れるを以て、米貨を以て之を計れば結局獨逸內地の物價は戰前と略同一なるべきに、此表に據つて見るに、米國への輸出價格は決して一般の信ぜるが如く低廉に非ず、十割乃至二十割の騰貴を示し、米國市價の騰貴率と略均衡を保ち居れるを知るべし。

經濟史研究に就いて（三）

野村兼太郎

六

再びアシュレー敎授の論ずるところに歸つて、經濟史研究に必要なる前提を述べよう。

「今や更に最後に經濟史其のものに就いて述べるに先立つて、其の前途を十分に開くところの二つの批判が存する。即ち第一に『經濟學說に相當の親みを有することが歷史家の領分內に這入るやうな產業現象を觀察するのに必要である。』(1) と云ふことを主張する。余がすでに以前に假定せる熱心家に助言して、經濟學說に對して相當の親みを得ることから始めるやうに勸めたことは御記憶のことゝ思ふ。然し乍ら余は主として現在の意見に於いて、人間自身に對する正義の觀念からなしたことを自白しなければならない。理論的經濟學は英米に於ける多くの敎師の支持に依つて、非常に勢力があるから、彼が彼自身の爲めに正しく判斷することが出來れば兎も角、さもなければ潮流に對抗することは殆ど正當でないだらう。——殊に若しも敎師としての其の職業的見地が兎に角含まれて居るなら更に正しくない。然し經濟學說が歷史家に對して及ぼす實際的效果に關する範圍に就いて云へば、余は使用される言語の多くが不必要に大規模であると思ふが、特に研究に最も必要なるある時期に適用する時さう感せざるを得ないのである。同じ著者(ケーンス)は云ふ。『各々の場合に於いて直接の證據を以つて實際に吾人に與へ

られるものはすべて事件の甚だ複雜なる結果である。それ等の事件に於いて因果的關係の眞の結合は多くの違つた方法で隱されて居るだらう。それだから各觀察者に明白であるどころでなく、それ等は唯十分に科學的知識を供へて居る練られた研究者に依つてのみ見出され得るのである。』然し此の同じ著者が經濟史から學說の叙述に進んでゆく時、彼のとつた叙述の種類は次ぎのやうなものである。即ち中世紀に於いて『乾燥せる夏は器具を破損させる原因となつた。其の結果として需要が增加し、價格が騰貴した。そこでベーリフ(baliffe)の記錄は屢々『旱魃の爲めの鐵の騰貴』と云ふことを記して居る。』彼は『需要の代價に對する影響をよりよく叙述することは出來なかつた』(5)と云つて居る。確に現象間の關係を非常に明瞭に探求する力は正しい常識以上の何ものをも要求しない。吾人はソロルド・ロージャースの興味ある句を用ひ、而して『エジプト及びバビロンの王の時代には甚だ多く知られて居た。』と云つてもよかつたらう。私の引用した著者は、歷史派經濟學者が現代の理論家のなすやうな疑問を議論するのを氣遣つて居ることを、唯違つた事情に於いて知らず識らず假定しつゝあつたやうに思はれるだらう。理論の價値に對する斯くの如く誇大なる評價は、經濟史家の前にある仕事の特質がもつとよく了解されるやうになる時に、消えてしもうだらう。法制的若しくは法律的狀態の歷史家に關するやうな言語を經濟狀態の歷史家に關して用ひるのは殆ど誤の大なるものであるやうに見られるだらう。是がすでに明白でないと云ふのは不思議である。例へば非常に違つた時期に觸れて居る最近の二つの著作、シーボーム氏の『村落共同團體論』と、(6)チャーレス・ブース氏の『勞働と人民の生活』(7)とが社會進步の眞の了解に非常に價値のあることは誰も否定しないだらう。是等の書の何れに於いても經濟學說は何等の明白な役に立たなかつた。

それにも拘らず單純なる因果關係さへ看過されるやうな場合を豫防する爲めに、學生に向つて現代經濟學の根本に親しむやうにすることに依つて始めよと注告するのは賢明なる用意であらう。且つ又現代の經濟學が確に今日の農業、工業及び商業の主なる特質のあるものを最も明確にした以上には、其の法式は經濟史家に對して比較に便宜な標準を與へるだらう。其の結果として經濟史家は過去の狀態の明かな特質が何であるかをよりよく認めるだらう。然し余の意見では是より以上に經濟學說は其の賢明なる辯護者バジョットが特に其の適用性を制限した社會狀態以外の如何なるものにも適當しないだらう。其の制限した社會狀態とは『商業が非常に發達した、及び最近百年間に英米に於いて起つた發展の形式、若しくは其の形式に近いものをとる社會狀態』(8)である。而も此の最近の間でさへも多くの優れたる著作、缺くべからざる著作が『經濟的原理』"economic organon"(9)なくして可能である。此のことはチャーレス・ブース氏及び其の一派と呼ばるべき——シュロッス氏、リュウリン・スミス氏、コレット嬢の如き研究者の著作に依つて十分に示されて居る。

「經濟史研究の途を十分に明けるのに他の邪魔物は史的記錄の不完全に基く議論である。ケーンス氏はリチャード・ジョーンスから、『歷史は其の頁から失はれたことに害される。恐らく今日吾人にとつて最も貴重なものである多くの報道を決して記錄しなかつたらう。』(10)と云ふ注意を引用した。而してジョーンスが歷史派寺院に於

ける敎父の一人とも云ふべき者であるから、其くは我が學徒も好古家も共に彼等を模倣すること

の反對は悲觀させるものである。然し文章自身に於いては後れないでありたい。歷史的記錄

に就いて見れば、リチャード・ジョーンスは言葉は我國のにも又外國のにも共に、多くの知られ

の點に於いては、更に愉快な見地に置くやうにざる經濟的指示 ——彼等の探求は報ゆべき未だ

說き進んで居ることを發見するだらう。即ち少日光に照されざる多數の寶が含まれて居ると、

しく修辭的ではあるが、次ぎの文句は以前の一吾人は十分に信ずる。』[8] (“Surveys”:—p. 12-

節を記した後に、常に引用すべきであらう。『尙15)

ほ此の缺點は吾人がそれは存在して居ると考へ更に歷史的記錄に就いてアシュレー敎授の態

る時に常に存在して居ない。編纂者や學生は折度を明瞭に知る爲めには、同じく「經濟史の研

々元來の歷史家よりも一層惡いことがある。吾究に就いて」と云ふ題目の下で論じて居る一節

人の問題に最も重要な多くの知識が人々の心かを引用する必要があらう。[9]即ち同氏は歷史研究

ら消えてしまつた歷史的記錄の內に存して居に於いて特種細節の探求と一般化とに就いて左

て、それ等の知識は恰も太洋の秘密の底から失の如き議論をして居る。

はれて沈んだ財寶を發見するやうに、無視され「歷史研究の義務を補足するものとして一般化

た文獻の隱所から骨を折つて見出さなければなの義務が强制される。細節の探求は甚だ必要で

らないことを、ニーブール、サビニー、ヘーレある。實際此のことは人生の經濟的方面を注意

ン、ミューラー等の勞作が證明して居る。望むらする歷史家にとつて缺くべからざるものであ

る。何故なら吾人の原理の大部分は殆ど何にも知られて居ない。而も尙ほ探求することさへ出來たなら、甚だ澤山の材料があるからである。而して有效なる探求の仕事は正しい一般的結論の形成より甚だ容易である。故に細節探求の義務と容易なるに向はんとする心と科學的注意とが一緒になつて、屢々職業的歷史家を利益の幾分か狹い範圍內に限らせる。然し一般の敎養ある公衆は細節の精確に就いては極めて僅かより注意して居ない。各個々のものや枝葉のことがある大なる全體と如何なる關係があるか、又そのすべての意味は何であつたかと云ふことを知らんと欲する。若しも十分に訓練された學者が此の自然の健全な欲望を滿足させようと試みないならば、それは不完全な著者であらう。歷史家も經濟學者も——彼等は共に非難さるべき者であるから、——研究室の道具、若しくは演繹可能である。吾人は徒に細節に捕はれず、獨斷法に伴ふ性質を排除すべきであらう。然し『純粹經濟學』若しくは『純粹の歷史』の極めて近くにネメシス[11]は立つて居る。——亞米利加ではそれを通常『社會學』と呼んで居る。」(“Surveys” p. 29-30)

細節を探求することは勿論アシュレー敎授の云ふが如く、正しい一般的結論を形成するより容易であるかも知れない。然し獨斷的の一般論よりも遙かに困難な、然し有效な仕事である。單なる穿鑿癖を滿足させる考證と歷史が必要不可缺とする考證と區別する標準はすでに前節に於いて述べたるところであるが、實際問題としては尙ほ歷史家自身の豐富銳敏なる直感力を必要とし、アシュレーの云ふが如く簡單容易なものではない。又一般論も亦斯くの如き意味に於ける細節の研究が十分に果されるに於いてのみ

的一般論に墮せず、よく人類發展の史的事實を闡明しなければならない。

（註一）　Keynes, p 271.「原註」

（註二）　ベーヨフは中世に於ける英國マナアの役員である。アシュレーの記述するところに依れば「bailiff は manor に於ける領主（lord）の居住代表者であつた。：……彼は刈ること、積込み、車で運搬すること其の他の仕事を指圖し、土地が本當に泥灰色で肥され、施肥されて居ることを調べ、馬が過勞されないやうに防ぎ、納屋の打穀者を監督するのである。」（An Introduction to English Economic History and Theory. vol. I. p. 11）

（註三）　Keynes, p. 287.「原註」

（註四）　Frederic Seebohm :—"English Village Community."

（註五）　Charles Booth,—Labour and Life of the People."（1889-1891）後に二冊のものを四冊に增補する際題を變じて "Life and Labour of the People in London."（1892）となした。後更に次第に增補し、全部九卷外に一九〇三年結論一卷を加ふ。

（註六）　Economic Studies, p. 6; cf. pp. 5. 17.「原註」

（註七）　是はマーシャル教授の言であつて、其の著 Present Position of Economics（1885）の引用である。現著者アシュレーはマーシャル教授は「理性に依る事實の檢査」（四四頁）及び「三つのよく知られて居る科學的方法」の使用（四五頁）は「原理」の使用を必然的に含んで居る譯ではないと云ふことを指示するけれども、氏の議論の大部分に就いては全然同意である。又マーシャル教授の言葉に從へば「事實それだけでは沈默である。」（四一頁）と云ふのは極端に走るものであると主張した。然し其の講義は現在の太陽が正午に於ける光線の流出を示すと云ふよりも慰撫する太陽の朝を示すものである。「原註」

（註八）　Scope and Method, p 308.「原註」

（註九）　Literary Remains, p. 570.「原註」

（註一〇）　亞米利加史學協會（American Historical Association.）の Boston に於ける一八九九年十二月廿八日の年會で朗讀したものである。後同じく "Surveys" の中に收む。

（註一一）　Nemesis は希臘神話の女神、平等の女神とされ道德界の平衡注意し、幸福と不幸とが功勞に從つて人々に分配されることを監視する。これから復讐の神とされ人間の弱點、罪惡に相當する罰を與へる。（Seemann's The Mythology of Greece and Rome. 英譯に依る。）

七

又アシュレーの述ぶるところに歸る。

「吾人は今や更に少しく經濟史の 性質に就いて論ずべき地位にある。吾人は先づこれまで社會史、若しくは獨逸語で文化史 —— Culturgeschicht と呼ばれて居たものと如何なる點に於いて相違するかと云ふ質問を以つて始めよう。社會史は——少くとも實際それが存在して居る範圍內に於いて——多くの興味に助を求めた。例へば吾人自身の思想とは遠く離れた思想の形式を研究するのに好奇心を持つやうな心理的興味に助を求めた。尙は更に多く美的興味と呼んでもいゝもの、丁度舞臺の上の中世紀に於ける市場を見て滿足するやうな、單なる珍奇と奇怪とを含む喜悅の情に助を求めた。然し經濟史は全然一つの主なる興味——經濟的なるものに依つて支配される。それは次ぎのやうなことを尋ね求める。即ち何が社會的存在の物質的基礎であつたか。人生の必要品や便宜品は如何して作られたか。如何なる組織に依つて勞働は支給され、管理されたか。農業、工業、商業の方法には如何なる變化が起つたか。如何なる理解し得る發展が跡づけることが出來るか。若しそれが出來るならば、それは惡い方からより善い方にであつたらうか。是等及び是等に類似した多くのことが經濟史の研究者に依つて尋ねられる問題である。斯くの如き研究の範圍を指示することは科學的分業の新しき一例である。それは是等を更によりよく研究せんが爲めに、事實及び勢力（force）の特種の部分の一時的孤立である。而して此の一見人事の下品な一面に思はれるやうな事實の特殊研究は其の重要であることに依つて理由あるものとされる。ジョン・モーレー氏が十分に注意したやうに、『歷史に於いて最もよく注意に價する二つのものは、一方に於いては社會の經濟的勢力の大運動であり、他方に於いては宗教的主張の形式及び教會的組織である。』(1)

社會史に含まれて居る多くのものは、美術、文學、技術的進歩、迷信、及び其の他のものに關する歷史家に讓られる。殘るところのものは、今まで關係のない特種物の戯積に過ぎないものであつたのを、整頓し且つ一貫するやうに努力して、其の特種の目的の爲めに利用されるだらう。

「然し乍ら經濟史家は屢々普通に其の目的の爲めに最も重要であると考へられる多くの知識の斷片に就いて熟思することは延ばす方が怜悧であると考へるだらう。――勿論それ等をそれ一方に突き進むやうに誘惑されるだらうが――此のことは前に述べたことに關係して觀察されるだらう。此のことは中世紀に於ける物價と貨銀とに關する統計に於いて特に眞理である。即ち一部ソロルド・ロージャースが彼の全注意を此の種の材料の蒐集に注いだ爲めに、一部經濟學說論者が市場の作用に依つて先入されて居た爲めに、經濟史家が最も要求することは過去の世紀に於ける一日の勞働、若しくは一日の食料の代價を知ることであると云ふ觀察が生じた。勿論此の種類の事實にも價値はあるが、然しそれ等を本來の位置に置くことが出來る時にのみである。吾人の第一の要求は何が數時期に於ける社會の規定の骨組であつたか、種々なる社會階級の構成は如何であつたか、及びそれ等相互の關係等に就いて、現在なして居るよりも、もつと精確に了解することである。是は英國の農業史に眞面目な注意を拂つた誰でも驚かされなければならない說明である。――シーボーム氏の著作の最初の百頁はソロルド・ロージャース氏のすべての浩瀚の集成よりも甚だ大なる重要さを有する。而して前者は多分後者に依つて與へられた勞力と時間との四分の一を其の主題に與へて居ない。それはシーボーム氏は吾人に農業民の日常生活の生き〳〵した繪を與へて呉れるからである。其の繪はロージャース氏の事實に始めて眞の意義を賦與するものであつた。」(cf. Surveys", p. 156)

以上のアシュレー敎授の記述から、吾人はこゝに三つの問題に逢著する。第一は所謂社會史若しくは文化史と經濟史との關係である。若し歷史を人間のみの記錄とする時には一般の歷史と文化史と如何なる相違があるか。更に文化史とはアシュレー氏の記述する如く、種々なる文化相に分けられて思考し得るものであるか。文化史とは單なる特種史の綜合に過ぎないのか。經濟史は單なる文化史の一分派に過ぎないのか。是等の問題は自ら經濟史其のもの、性質と密接なる關係がある。第二の問題は經濟的事實の研究が特に重要であると云ふ事實から、社會の發達を唯物的に考察せんとする所謂唯物史觀の問題である。第三の問題は歷史は單なる材料の蒐集ではなくして、生き〳〵した事實の記錄であると云ふことである。以上三種の問題の中第三の問題はすでに前に幾度か記述したところであるから、必要のない限り繰返さないことにする。(2)殘るは第一と第二の問題である。先づ第二の問題に就いて述べ、然る後第一の問題に移らう。

(註一)　'On Popular Culture,' in Miscellanies (e.t. 1886) iii. 9.「原註」

(註二)　本論文第五節、第六節參照

八

先づアシュレー敎授が前に擧げた第二の論文に於いて述べて居る唯物史觀に對する批評を紹介する。

「近年ある部分に於いて――幸に英米に於いては未だないが――經濟史自身の爲めに、『唯物

ると云ふ信念を更に細密に說明した。尙ほ更に
考へられた。カール・マルクスは大なる才能の
獨逸の史學教授カール・ラムプレヒト博士は人
人ではあるが、さう學者でもなく、獨創的でも
を惹きつけるやうに書かれた其の獨逸史の公刊
ない。やうに見える。彼は如何なる特別の時
に際して、兎に角同じ印象を生じた言葉で、彼
期に於いても經濟的狀態はそれ自身の反映の
の『方法』を正當とする機會を得た。(3)すべて是等
一種として、其の時代のすべての政治的、知的
は非常に大なる驚愕を生じたので、最近二年若
及び宗教的現象さへ條件づける許りでなく、又
しくは三年の間少くとも經濟史を書かんとする
創造もすると云ふ意味の言葉を使ふのを常とし
者は、歷史の物質的概念に關して少しでも其の
た。彼の弟子達は彼を『歷史の物質的概念』の
意見を陳述するを餘儀なくされた」。(3)（"Sur-
『發見者』として讃美した。而して彼等はそれを
veys"—p. 25-6)
最も明かに反對の事柄にまで適用することを躊
躇しなかつた。彼等の中で最も有名な者に從へ
斯く唯物史觀の問題が經濟史研究者にとつて
ば、カルビンの選擇の學說さへも個人的支配以
かなり重要視されるに至つた事實を簡單に指摘
外の原因に依る競爭的職業の成功、若しくは失
した敎授は「歷史の『物質的』概念が支持さるゝ
敗に基く神學的表現に過ぎないのである、更に
か如何かの問題——即ちすべての部面に於いて
最近に伊太利大學の經濟學敎授ロリア氏は政
人間の歷史の全運動が人間の意思と獨立の外的
治、倫理及び宗教は單に經濟的環境の產物であ
狀態の壓迫に歸するか如何かと云ふ問題は、其
の顯れたる意思それ自身が環境の結果であると

云ふ範圍を除いて、唯宇宙永久の疑問、必然か
自由意思かと云ふ問題の一變形に過ぎない。」と
論じ、政治的若しくは知的進步を條件づけるこ
とはそれの原因となることゝ同一でなく、又思
想の體系が假令それが外的周圍に依つて創られ
ると想像しても、明に屢々それ自身の內的論理
に依つて展開され、其の素の形とは全く違つた
形のものとなつた等の理由から唯物史觀を排斥
した。而して更に次ぎのやうな實例を以つて說
明して居る。

「且つ又余は世界史のある危機が愛國主義と
か個人的天才に依つて決定されたやうに思はれ
ることを指摘する。例へば、……アテネのペ
ルシヤに對する反抗はアッチカの經濟的地位に
歸するやうに記述するのは矛盾であらう。經濟
的利益の壓迫が生じたのは Medising State であ
つて、アテネではない。更に又懺悔王（エドワ
ード王、在位一〇四二—六六年）治下の英國と
佛蘭西と獨逸との近世王國を比較する時、余は
英國が後になつて比較的鞏固な中央政府を他の
王國が失つて居るのにも拘らず、是を得た事實
——此の事實は政治的、經濟的、宗敎的に其の
國の其の後の發展に甚だ重大なる事實であるが
——ノルマンディーのウィリヤムのやうな支配
者に土地を征服され、其の後ヘンリー二世やエ
ドワード一世のやうな人物が後を襲ふたと云ふ
事實を除いては他に說明するものがない。」
("Surveys":—p. 27)

アシュレー敎授の此の唯物史觀の批評は吾人
を滿足させるものではない。勿論氏自身も是を
以つて唯物的定命主義を完全に打破し得たとは
考へて居ない。(3)然し氏は是以上此の問題に觸れ
ることなく、前に擧げたラムプレヒトの批評に
進んで居る。然し吾人は尙ほ少しく唯物史觀其

のものに就いて批評を加へる必要があると考へるから、暫くアシュレー氏の論述を離れて説明したいと思ふ。

（註一）　拙著「經濟的文化と哲學」第三篇參照。但し本書に於ける論述は更に以下本論文に於いて述ぶるところに依つて補足さるべきものである。

（註二）　アキール・ロリア及びラムプレヒト兩氏に就いては唯物史觀考察後簡單に論及したいと思ふから、敢てこゝに詳論しない。

（註三）　現代に於いて經濟史の考察が益々重要視され、且つ唯物史觀がそれと共に重きをなした點に就いては、アシュレー教授が同じく此の論文の前の部分で論及した一節が參照に價すると思ふから、こゝに紹介して置く。

「意識的に無意識的に各時代は過去の研究に於いて特種の興味を以つて見るように束縛される。即ち何等かの理由に依つて現在に於いて最も興味ある人生の狀態若しくは方面に就いて束縛される。……

「三世紀の間、人心は神學的論辯に依る一つの特種の方向に向いて居た。而してそれに依つて Bellarmin から Mosheim に至る教會の職業的歷史家に依つて、莫大なる博識の貯藏が蒐集された。權威書の多くの集成がベネヂイクト派及び其の他に依つて印刷された。而して更に意義のあることは各大學者 Grotius や Casaubon のやうな人が必然的に相當の教會的歷史家であつたことである。今日の吾人にとつて斯くの如き態度が如何に無關係になつたかは、吾人が教會史を神學科に祭り込む流行的傾向及び神學的定義が人間の行動に對して嚴格な影響を及ぼした信仰を區別せんと努力する際、多くの大學教師が遭遇する困難を顧る時、明白である。又佛國西革命に始まる憲法作成時代は吾人に法制史家を與へた。一八三〇年及び一八三二年以外の年では Guizot, Hallam, Macaulay は説明することが出來ない。廿一世紀に於ける研究者は心の中に二人のナポレオンを有するにあらずば、Mommsen の「羅馬史」の見地を評價するのに十分でないことを發見するだらう。而してビクトリヤ時代に於ける英國の黨派制度が如何であつたかと云ふことを忘れたならば、Mr. Grote の希臘史を完全に了解し得ないだらう。嚴密に同樣に現代經濟問題の切迫が經濟史の全文獻を生ずる、否すでに生じ始めたことは確實である。現存社會狀態に對する社會主義者の批判が最初の中は彼等の論點を支持する議論の爲めに歷史の方に向けられた。社會的事件のより保守的な研究者は並べられたる事實の敍述を檢査するのに束縛を感じた。而して一は勞働問題、農業問題、關稅問題及び貨幣問題の流布の爲めに、一は政治運動の民主化、人道的倫理學の爲めに、一般の歷史家は潮流に沿ふて進んで居た。Green の "Short History of the English People" の序文は現代の典型的歷史家の信條の告白であるそれに就いて最も無意味のものと云へないのは一八七四年と云ふ其の公刊日附である。」("Surveys": —p.23-4)

（註四）　アシュレー氏は經濟的必至論者を論破するには定命主義を十分に論ずる必要ありとし、定命主義に對する批判として James 教授の論文 "The Dilemma of Determinism" ("The Will to believe." 中にあり）を讀者に奬めて居る。

（未完）

社會思想家としての
ウヰリアム・モリス　（三）

加田哲二

六

建築の實際的修得を捨てた Morris は、その繪畫の師として Rossetti に就いた。Rossetti は魅力ある人格を以て、多くの人々を惹きつけた。彼は何人も彼の衷に詩を持つてゐる人は繪を書かなければならないと信じた。さうして英國の詩壇は、その長い光榮ある歷史を經過して今やその終末期に臨んでゐる。然るに英國の繪畫は、その黎明期にあつて、その黎明の藝術を育くみ、成長さすことを以て、Rossetti は彼の使命としたのである。この信念を以て Rossetti は多くの青年に説いた。Jones も Morris もこの信念に動かされたのである。Rossetti は千八百五十七年の二月に William Bell Scott に宛てた書翰において、次のやうに彼等を評した「牛津並に劍橋雜誌の計畫者である二人の青年が近頃 Oxford から London に來て、今では自分の大邊親しい友達になつた。彼等の名前は Morris と Jones とである。彼等は普通あの大學を出た者が取る道を採らずに、藝術家になつた。Jones の素養は完全と想像の巧緻との見本で、恐らく Albert Dürer の最も美しい作品を除いては、之